

京都府少子化対策審議会・京都府子育て支援審議会 開催結果  
(平成28年度 第1回)

日 時 平成28年6月29日(水曜日)午後3時から午後5時まで

場 所 ルビノ京都堀川

出席者 大江委員、鈴木委員、真山委員、山岡委員、藤本明弘委員、楠委員、中田委員、楡田委員、山本委員、禹委員、田村委員、川村委員、諏訪委員、津田委員、栗田委員、田中美賀子委員、篠原委員、伊豆田委員、天野委員、藤本美子委員、北川委員、竹内委員、村上委員、塩谷委員、神先委員、宮村委員、北村委員、金井委員、西村委員、中西委員、山口委員

議事内容

1、京都府少子化対策審議会会長の選出について  
藤本明弘委員の推薦により、真山委員を選出

2、少子化対策基本計画の検討について

◇結婚の支援

- ・結婚に対して、不安になっている若者も多いので、行政や民間が様々なサポートをしていることを発信していくべきである。
- ・京都で学ぶ学生や地域で暮らす若者が定着して家庭生活を送れるような、仕組みづくりが必要である。
- ・学生が地方から来たとき、働く場が充実していれば、京都に定着し、結婚するのではないかを考える。

◇妊娠及び出産の支援

- ・二人目・三人目を産まないのは、一人目で子育てに自信をなくす親がいることによるとも考えられる。妊娠・出産から子育てまでの包括的な支援や産後4～5カ月までの産後ケアは非常に重要である。

◇総合的な支援

- ・第3子以降の保育料の無償化については、範囲を少しずつ広げる努力をしていただきたい。
- ・教育に係る経済的負担を軽減することが必要である。
- ・家庭問題の暗い部分への対応は困難であるため、行政の支援を計画に入れていくことが必要である。

◇少子化に関する教育及び学習の機会の提供並びに雇用環境の整備や府民の気運の醸成に関する施策

- ・小学校で「いのちの誕生」や「子どもへの思いやり」等を教えることが重要であるとともに、学校で子育てに関する相談等を行うことができる場を設けることができると考える。
- ・高校生等に子育て授業を実施して赤ちゃんの抱っこ体験等をしてもらおうと、子育ての大

変さ、かわいさを実感してもらえ。子どもを持つことの良さや将来の見通しが持てる  
ことが重要である。

- ・男女を問わず大学生を対象とした長い人生設計を踏まえたキャリア教育が必要である。
- ・働き方改革は少子化対策として重要であり、職種限定や地域限定、短時間正社員等、様々な働き方をもうけていくことが、家庭と仕事の両立の観点から重要である。
- ・男性も含め、育休や短時間勤務等を取りやすい環境づくりが重要。イクメン大学等、民間では取り組みにくい施策を京都府として進めてもらいたい。
- ・育児、子育て政策等は中小企業ではなかなか実施できない。行政としての支援が必要である。
- ・自立した家族・パートナーとしての意識を持つことや、子育てにつながっている企業への支援等、京都らしい施策が重要である。
- ・親が子どもが育つことに喜びを感じるということが重要であり、保護者の不安を取り除いていくことが必要である。
- ・それぞれの家庭で家庭を持つことや子どもを産み育てることの良さを語らないと、行政や企業が旗を振っても不十分である。